

次で無事故を継続できるようになった理由を解説!

# …今日も快晴!… トラックドライバー日誌

「安全・安心」に欠かせない取り組みを、サンライズ運送に勤めるスタッフたちそれぞれのエピソードを通じて紹介。

## 第20話 「交通事故の四重奏」を 防ぐために



「交通事故の四重奏」を防ぐために

## 事故の回避は「停止と確認」の繰り返しに尽きる

事故は複数の原因が重なり発生するもの。  
危険回避の行動を繰り返すことが重要です。

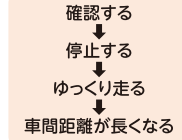


マンガ制作: ad-manga.com

「停止(てーし)と確認(よーし!)」  
の繰り返しを習慣化しましょう

## 停止・確認を基本に、「交通事故の四重奏」を防ぐ

他人まかせではなく「こちらが停まることで交通事故を起こさない」という努力と  
実力による安全確保を!



「交通安全のカルテット  
(四重奏)」で事故を防止しよう!

安全の軽視は、危険の始まり

スポーツや武道などに用いられる格言で「勝ちに不思議の勝ちあり、負けに不思議の負けなし」とありますが、安全においてはまさに、「事故に不思議の事故なし」です。

例えば、ドライブレコーダーに記録された交通事故発生の瞬間を映像で確認すると、驚くほど高い確率で「ハンズフリー機能を使った通話中」に発生しています。これも慣れによる油断であり、「事故に不思議の事故なし」の代表的な例といえます。

運転時に動かすのは、まず頭(予測)、次に目(確認)。そして、それを動かした結果に応じて、手と足が動くはずです。通話に夢中になり「運転の頭」が使えなくなれば、結果として目の危険に対して「手も足も出ない状態」に陥ります。

違反をしたくないのならハンズフリーでの通話でもOKですが、事故を起こしたくないのなら車を停めて通話を。そして、事故の原因を予測できるように「停止してしっかり確認」という回避行動を習慣化しましょう。」ながら「運転と同じく、停車も」ながら「確認にならないように。」

「面倒」に感じて省いたりすることがあるかもしれません。このように安全行動を怠った瞬間があり、さらに周囲の危険な状況が一致する瞬間に交通事故が発生する確率が高くなるのです。

ドライバーが「たぶん大丈夫だろう」と安全を軽視した時点が、危険の始まり。「これでもか!」と思うくらいに「停止(てーし)と確認(よーし!)」を繰り返すことによって、危険を遠ざけることができます。

### 運転は頭と目を動かすこと、手と足が動く

### 油断・横着、面倒がより危険な状況をつくる

自動車教習所で習ったことを今も全ての人が実践すれば、交通事故は激減しているはずです。しかし教習所で覚えたことを、慣れによる「油断・横着」の心理から忘れてしまったり、疲れによって

確認をしようとするれば停止するはずで、停止をしようとするれば減速するはずで、逆に前車よりも速度を上げれば、当然、車間距離が短くなります。そうすると、前車に遮られて前方の状況が確認しづらくなり、例えば「信号機のない横断歩道で、歩行者が渡るうとしている時」に前車は法律を守って一時停止をすると、車間距離が短いため追突事故を起こすかもしれません。「横断しようとする歩行者を発見して、急に停まるかもしれない」とこの前車の前方の予測と対処も必要です。

### 「交通事故の四重奏」と、防ぐために必要なこと

「交通事故の四重奏」とは①確認しない②停止しない③速度が速い④車間距離が短いという事故原因が連鎖する状態です。「停止してから確認」を基本にすることで原因を遠ざけることができます。

「これくらいなら大丈夫だろう」ではなく、「これでもか!」と思うくらいに「停止と確認を」



高柳 勝二 (たかなが かつじ)

株式会社 プロデューブ代表取締役。1990年、運送会社にドライバーとして入社し、管理職を経て18年間勤務。2008年に株式会社 プロデューブ設立。中小運送会社からの依頼が多い「提案型」研修は、受講されたドライバーや管理者からの「おもしろい・眠くならない・分かりやすい」との評判が口コミで広がり、各都道府県のトラック協会や協同組合等の研修会でも講演多数。2016年度から2022年度まで国土交通省「自動車運送事業に係る交通事故対策検討会」委員。